魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 椿 啓子	所属: 大衡村立大衡小学校	記録日:2022 年 2 月 4 日
キーワード: 読み書き指導		

【対象児の情報】
・学年
　小学 2 年生
・障害名
　知的障がい
・障害と困難の内容
・みんなと同じにできることがある一方で,「読む,書く,話す,聞く」の困難さから失敗経験を重ねてきたため,それらを伴うことへの取り組みを拒否してしまう。
・文字を書きたい意欲はあるが,空間認知や運筆に困難があるため,文字の形が整わない。
・音韻認識とデコーディング能力に困難さがあるので読みが定着しにくい。

・使用した機器に ☑
　☑iPad □iPhone □watch ☑chromebook(学校貸与機器) □AI スピーカー □Pepper

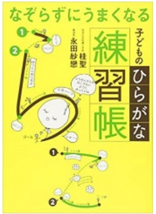
【活動目的】
○当初のねらい
① 「読みたい」「書きたい」という意欲を支えることで読み書きできるものを増やしていく。
② 伝える方法を身に付け,できることを増やすことで自信をつけさせる。

・実施期間
令和 3 年 5 月 6 日から令和 4 年 2 月
・実施者
　椿 啓子
・実施者と対象児の関係
　週5回国語の指導

【活動内容と対象児の変化】
○対象児の事前の状況
(行動面)
・負けず嫌いで,できない姿を見られたり指摘されたりすることを嫌う。その一方で人の間違いは指摘する。
・自信のなさやできないことへの恥ずかしさから活動を拒否することがある。活動内容が変わり,できることになると気持ちを切り替えることができる。拒否せずに小声で「難しいんだよ。」「できないんだなぁ。」と言って助けを求めることもある。
・係の仕事や教師のお手伝いは進んで行っている。一度指示されると次回からは忘れずに行うことができる。
・登校後,交流学級に遊びに行ったり,休み時間に交流学級の児童と外遊びをしたりすることがある。
・交流授業でも苦手なこと以外は一斉指示や周りの様子を見て活動することができる。
(学習面)
<学習環境>

・国語は自閉症・情緒学級(採択者が担当)で学習。
・音楽・体育・図工は通常学級で交流学習。
・その他の教科は所属学級で学習。
・学級で文字を目にする場面は，黒板に書いてある日付や時間割，給食の献立表
<読みの状況>
・平仮名清音の読みで定着しているのは35字程度。形の似ている文字を読み間違える。昨年は，絵が描いてある単語カードを読む練習をしてきた。50音表未学習。清音以外は未学習。
・発音は不明瞭で聞き取りにくい。早口なことと間違えて覚えているものがある。(「らいおん」を「だいおん」という等。「ら」が発音できないわけではない。)聞き取れないので聞き返す回数が増えると黙ってしまう。
・日直の時に献立を紹介する場面があるが，担任の先生が献立表を読み，それを復唱している。
<書きの状況>
・なぞり書きはできるが，想起して書ける平仮名が25字程度。書ける文字でも形が整わなかったり，書けたり書けなかったりする。鉛筆を正しく持てず(箸の持ち方も独特)筆圧が弱い。昨年はアプリのなぞり書きで練習していた。
・覚えた文字を家庭でノートに羅列してくることがある。書きたい意欲はあるが，言葉にはなっていない。
・斜め線や曲線が上手に書けない。
・書いている途中に，「ここが難しい」と苦手な場所を言うことができ，書いた文字を見て，思うように書けたか書けなかったかの判断ができる。
<その他>
・読み聞かせは好んで聞いている。他の人たちの会話をよく聞いていて，口をはさんでくることがある。
・しりとりができない。「あ」のつく言葉や「い」のつく言葉を考えることが難しい。

○活動の具体的内容
1「読みたい」「書きたい」という意欲を支えることで読み書きできるものを増やしていくために
①いろいろな言葉や文字に楽しみながら触れる。

使用したアプリなど	主な活動方法	実施時期
言葉に触れる 	・「グーピーともじあそび」→文字探し，しりとりなどもじ遊びなど。 ・「音韻認識力をはぐくむ!ひらがなトレーニング」→音韻認識力を高める。特殊音節の習得。など。 ・「絵本が読み放題」→お話を楽しむ。	5月~7月 毎日 5月~週1回
文字に触れる  ※使用したアプリは全て音が補えるもの	・「ぷにふわばる~んとひらがなならべ」→平仮名の読み練習。五十音表の習得。 ・「なぞっておぼえる!ひらがなカタカナ」→平仮名・片仮名の書き練習 ・「ひらがな練習帳」→一日一文字ずつ平仮名を書く練習。書くだけでなくその文字を使った言葉を考えたり書いたりする。言葉は授業で一緒に考え，宿題でなぞり書きしてくる。	5月~9月 5月~7月 11月~1月 5月~9月

②献立表を読む。

・「DropTalk」に献立表を音声をつけて入れておき，読みの確認をする。(6月～9 月)

・毎週金曜日の朝の会で献立表を読む担当になったので，月～木に読みの練習をして金曜日に備える。(11 月～)

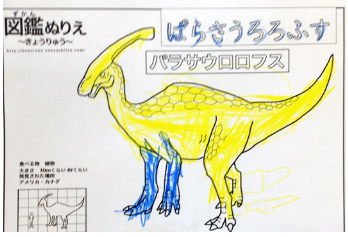
③予定の確認を通して身近な言葉の読み書きをする。

・教室の黒板に書いてある本児の時間割を撮影し，それを見ながらホワイトボードにミニ時間割を作る。ペンで書いたりマグネットをはったりして作成する。筆圧が安定してからは紙に鉛筆で書く。(5 月～毎日)

④好きなものの名前を覚えたり書いたりする喜びを味わう。

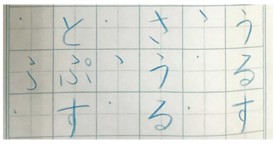
・「ロイロノート」に恐竜のぬりえを保存しておき，選んだぬりえをプリントアウトして塗る。文字と音(教師が録音)で恐竜名を確認できるようにしておく。恐竜名を白抜き文字で提示しておき(平仮名と片仮名)恐竜名のなぞり書きもする。塗り終えた絵を「ロイロノート」に保存し，恐竜名を本児が録音する。(6月～10 月　毎日)

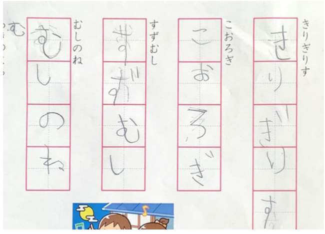
・「ロイロノート」への保存に加えて，塗り終えた作品は印刷してクリアファイルに入れ，いつでも見られるようにする。



・宿題でノートに好きな言葉を書く。(恐竜名やトイストーリー，スーパーマリオのキャラクター名など。)なぞり書きと視写をする。視写の際は始点を示したり苦手な形などを部分的になぞれるようにしたりして書く位置の見当が付けやすいようにする。(9 月～　毎日)

・キャラクター名などにはあまり使われない文字もあるため，ある程度 50 音が書けるようになったらその他の語彙のプリントの宿題も出す。なぞりと視写の問題を交互に出す。





・恐竜カルタをする。最初は 5 枚ずつから始め，枚数を増やしていく。最終的には約 50 枚を 2 組に分けて日替わりで使用する。(9 月～12 月毎日，1 月～時々)

・「ひらがなめっちゃわかるもん!!」で平仮名を並べて言葉を完成させる。恐竜の問題も作成しておく。
(6 月～時々)

2 伝える方法を身に付け，できることを増やすことで自信をつけさせるために

①伝える喜びを味わう。

・「DropStep+ByTalk」で教師が恐竜の絵を送り，その名前を文字入力で答えるというやりとりをする。(平仮名で恐竜名を書いた※「恐竜カード」を持ち帰らせる。)(夏休み中)

※「恐竜カード」(恐竜カルタの取り札を拡大し，平仮名を付け加えたもの)→

・「DropStep+ByTalk」で教師としりとり遊びをする。(10 月～週 1 回程度)

・担任の先生や支援員さんに手紙を書く。内容はトイストーリーのキャラクター名を書いて(写真と平仮名片仮名が併記してある資料から選ぶようにする。)それを知っていますか?と尋ねたり，逆に尋ねられたりするもの。(10 月～12 月週 1 回)

・chromebook で Googlemeet のチャット機能を使って隣の教室で学習している同じ学級の子としりとり遊びをする。(12 月　数回)

〇対象児の事後の変化

Ⅰ　読み書きできる文字が増えた。

①文字と音が一致できるようになった。言葉は文字の集まりだと分かった。

・「グービーともじあそび」が特に気に入って何度も取り組み，この中のしりとり(文字で確認できる)ができるようになった。１１月には友達同士で口頭でしりとり(文字の確認なし)ができるようになった。

・「ぷにふわばる～んとひらがなならべ」では５０音表を覚えた。フリック入力も５０音キーボードも使えるようになって進んで入力したがるようになり，DropStep+ByTalkを使用したりsafariで検索したりできるようになった。平仮名の点つなぎができるようになり，完成した絵の名称を余白に平仮名で書けるようになった。

・書きたい文字が思い出せない時に，既に覚えた言葉から思い出そうとしたり(にじのに？など)５０音表から探したりするようになった。

・「音韻認識力をはぐくむ！ひらがなトレーニング」では，最初は黙って問題に答えていたが，文字を読んでから答えるようになった。文字数の多い言葉が出てくるのを楽しむようになり，１２月には拗音や長音の問題も正解できるようになった。

・「なぞっておぼえる！ひらがなカタカナ」は，平仮名が書けるようになってから一時期使用していなかったが，１２月に片仮名を書きたがり，自分から取り組んでいた。

・「ひらがな練習帳」で文字の形を一通り確認して練習したところ，気を付ける部分を自分で言いながら書くようになった。練習した文字を使った言葉を宿題で書いてくるようにし，最初はその文字が語頭に付く言葉(「あ」を学習した日は「あ」から始まる言葉)にしていたが，５０音を一通り学習した後は，本人の希望もあって書きたい言葉に変わっていった。

②献立を音声を聞いて覚えた。

・６月に始めた頃は音を聞くだけですぐに終わらせたがったので一時中断した。１１月からは金曜日に発表できるよう月曜日から木曜日までは毎日金曜日の献立を文字と音で確認するようにした。一度だけでなく繰り返し聞いて自信が持てたためか自分で文字を拾って読もうとするようになったが，まだ朝の会では読めていない。

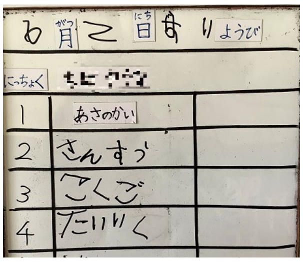
③教科名や友達の名前の読み書きができるようになった。

・時間割を書くことで教科名は比較的早い時期に書けるようになり，写真を見ながらではなく教科名を確認後に写真をわざと隠して書くようになった。国語や算数など毎日出てくる教科名だけでなく，あまり目にすることのない行事名も書けるようになった。

・教科名が読めるようになり黒板の時間割を自分で確認し，見通しを持って行動できるようになったため交流授業への移動が早くなった。また，自分の時間割だけでなく，他の子の時間割も読んで教えてあげるようになった。(支援員さんより)

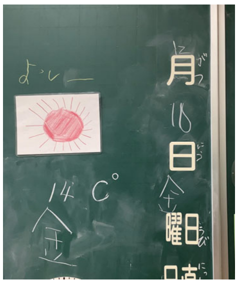
・自分から進んで学級の黒板の日付や曜日を書くようになった。(担任より)

・片仮名や漢字，アルファベットも書きたがるようになり，水曜日は片仮名で「スイ」金曜日は漢字で「金」と書いている。(担任より)



ホワイトボードに
部分的にマグネット使用

紙に
鉛筆で書く

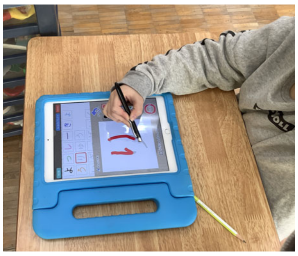


黒板の日付を書く

④知っている言葉の読み書きができるようになった。

・ロイロノートに恐竜名を録音する際，最初は「ザウルス」と発音していたが，文字の学習を進めていくうちに「サウルス」と言うようになり，最初「ザウルス」と録音したものを全て自分から「サウルス」に録音し直した。

・ぬりえには恐竜名が片仮名でも書いてあり，何度もでてくる「サウルス」やぬりえの説明文中の「アメリカ」などが読めるようになった。



・紙のぬりえを全て塗り終えてしまった後はオンラインぬり絵をした。当初検索は教師が行ったが，「ロイロノート」の活用を通して名前を覚えたことで教師に塗りたい恐竜の名前をはっきり伝えることができるようになった。夏休み明けには自分で入力して検索もできるようになった。この頃，塗りためていたオンラインぬり絵を印刷して教室に掲示してもらうことにし，「こどもレター」を使用して恐竜名を書いた。文字入力ができるようになっていたため，「こどもレター」のお手本作成も自分で行うことができた。

・「こどもレター」では，恐竜名の他にも自分が書きたい言葉を自分で入力して書くようになった。

↓

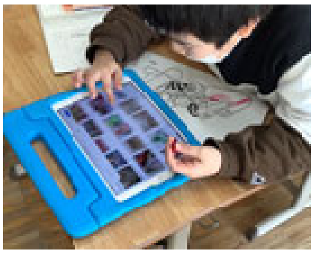
ドラゴン
ドラえもん
くし
かい
みかん
たこ
とみおかぎゅう

「こどもレター」で作成。なぜか一字一字色を変える。→

・恐竜ぬりえが一段落すると，スーパーマリオ，ポケモンとぬりたいものが変化していった。スーパーマリオのぬりえを始めると，自分から家の人に頼んでクリアファイルを買ってもらい，恐竜ぬりえのときと同様に作品ファイルを作った。

・ぬりえしたキャラクター名を自分で書きたがり，余白に手書きするようになった。

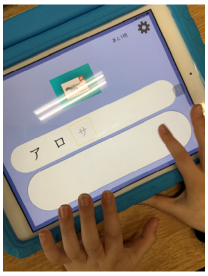
・好きなキャラクターについて調べたいと自分で入力して検索した。



手書きした言葉↑
「まりお」「ルイージ」「ぷるばっく」

・ぬりえの際にクーピーやタブレット用のペンを使用したことで持ち方や力の入れ方の練習になり，鉛筆で文字を書く際にも効果が見られた。

・昨年，学級でカルタをしたときは頑なに拒んでいたが，恐竜カルタは抵抗なく取り組んだ。最初は絵を覚えて取っているようだったが，取った後に取り札を見ながら恐竜名を読むようになり，たくさん恐竜名を覚えた。恐竜名は自分で言いたいので読み札を読んでいる教師に向かって「(恐竜名は)読まないで」と言うようになった。恐竜以外のカルタでも学級の友達と対戦できるようになった。



・「ひらがなめっちゃわかるもん!!」は 5 月から時々使用していたが，恐竜の問題を入れてからは，自分から進んで問題に取り組むようになった。冬休みに iPad を家庭に持ち帰った際は，自分でカタカナモードにして使用した。

2　文字入力や手書きで伝えることができるようになった。

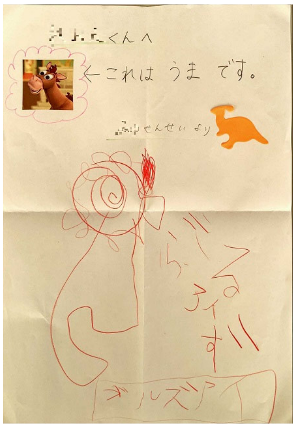
文字でのやり取りができるようなった。

・「dropstep」で恐竜の絵を見て名前を入力するというやりとりでは，始めは間違えたものを送ってきていたが，回を重ねるにつれて最初から正しいものが送れるようなった。夏休み明け，進んで文字入力をしたがるようになった。

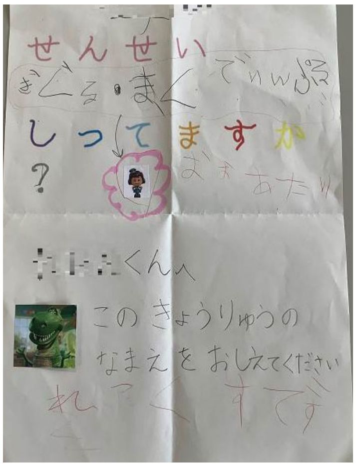
・「dropstep」を使用しての教師とのしりとり遊びでは恐竜名で答えたがり，恐竜カードで名前を調べながら入力した。

・友達との chrome book でのしりとり遊びでは，「dropstep」で経験して文字入力も自信を持っていたためか喜んで取り組んだ。あまり迷わず答えを考えることができ(このときは恐竜名ではない)，chrome book の文字配列が 50 音順でないにもかかわらず入力するのも早かった。相手の子が返してくる言葉を推測して待つ余裕もあった。

・手紙を書く活動は，始めは面倒くさいと言っていたが，回を重ねるとわざと長い名前のキャラクター名を選んで書くようになった。また，キャラクター名はひらがなで書くようにしていたが，片仮名で書きたがるようになった。

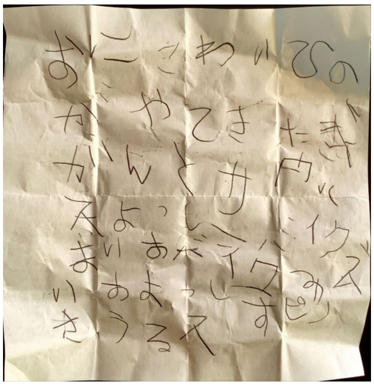


←本児が手書きした言葉
「ぶるずアイ」「ブルズアイ」

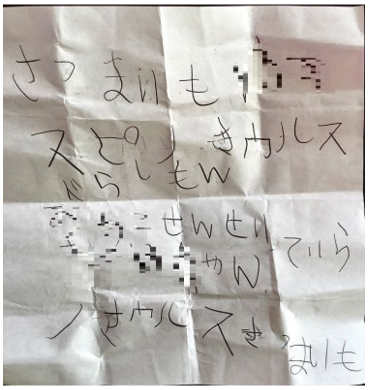


←本児が手書きした言葉
「ぎぐる・まくでぃんぷる」
「おおあたり」
「れっくすです」

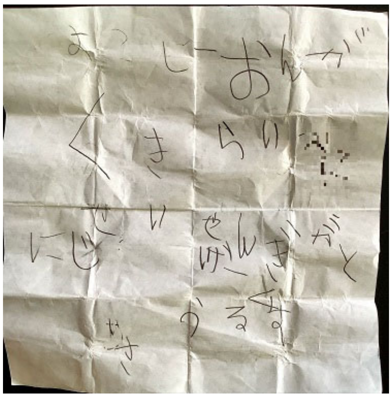
・表記の間違いはあるものの，授業以外の時間に教室で折り紙の裏に言葉や手紙をたくさん書くようになった。



おにこわい
よっしー，まりお，バイク，恐竜名などを書いている。



さつまいも，どらえもん，交流学級の先生の名前，友達の名前，恐竜名を書いている。



よっしー，おんがくきらい
交流学級の先生の名前，にじ，恐竜名を書いている。

・主観的気づき
音を確認しながら興味関心のあるものの文字に触れたことによって，楽しみながら読み書きの力をつけることができたのではないか。
〇恐竜やキャラクターなど好きなものを題材に学習を進めたことが，喜んで繰り返し取り組むことにつながった。

〇音を補うことができるアプリで楽しく文字や言葉に触れると同時に正しい音を何度も聞くことができた。そのため，文字と音を一致させることと正しい言葉を覚えることができた。

〇ICT を利用することでぬりえやカルタなど一つの素材を教材として発展させて使用することができた。(例:かるたの取り札を使用して平仮名ならべの問題作成，取り札を見ながら入力など)

・エビデンス

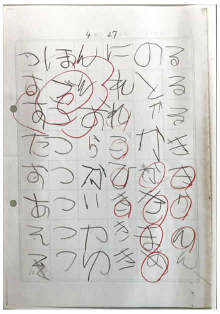
＜読み書きの状態から＞

①読み書きできる数の変化

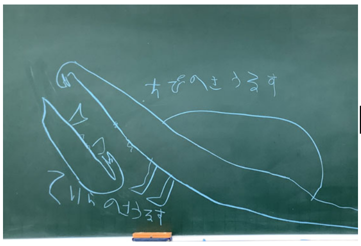
	平仮名の読み	平仮名の書き	片仮名の読み	片仮名の書き
４月	35	25	0	0
１月	46	42	40	6

平仮名の書きで全く想起できなかったのは２文字(え，や)，書いたが判別しにくいものが２文字(む，ね)だった。片仮名の読み書きについては特に指導していないが，恐竜名や好きなキャラクター名が片仮名だったので目に触れる機会が多かったことや，家庭で恐竜の本(名前が片仮名表記)をよく見ていたことも，読めるようになったことにつながったと思う。片仮名の書きについては本児がやりたがり，アプリのなぞり書きをしている。

②伝え方の変化

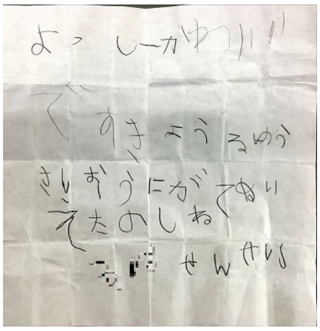


４月　文字の羅列
(言葉になっていない)



「すぴのさうるす　ていらのさうるす」

６月　言葉を書いた。
(伝わる言葉)



よっしーかわいい
ですきょうるゆう
(り)
さんすうにがてぬり
えたのし(い)ね
〇〇せんせい

11 月　支援員さんあての手紙
他にも折り紙の裏にたくさん書いた。

・その他エピソード

エピソード　本を見るようになった

・以前は学級で図書室に行っても本を開こうとしなかったが，恐竜や生き物の本を開くようになった。(担任より)

・図書室から本を借りてきて，教室に来た教員に本を借りたことをアピールしたり本を自宅に持ち帰ったりするようになった。本の返却日を友達にも教えてあげている。

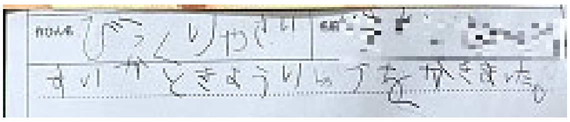
・借りた本を国語の時間に持ってきて「ティラノサウルス」や「ドンドンドン」など読める言葉を拾って読んでいる。

エピソード　交流授業の様子から

①図工の授業(交流)は，6 月には恐竜がうまく描けずにふてくされたことがあるなどうまくできないとすねることが多く嫌がっていたが，9 月のある授業で恐竜やスイカをとてものびのび描いていた。友達に「すごい。」と声を掛けられ，この日を境に昼休みは頻繁に交流学級に遊びに行くようになった。また，別の日にイルカの絵を描いたときは「うまく描きたい。」と言って直す姿がみられた。以前はうまく描けないとやめるかふてくされるかだった。

・本児の好きな恐竜を題材に国語の学習をしたことにより，自分で恐竜を描く機会が増え，(国語の授業終了後，黒板に恐竜の絵を描き，その横に恐竜名を書いていた。)恐竜の絵が描けるようになったことで自信を持って図工に参加できるようになった。(支援員さんより)
・図工は嫌がっていたが，最近は楽しそうに取り組んでいる。(交流学級の担任より)

作品票→



作品票は自分で作品名と文章を考え国語の時間に視写で書いた。

②音楽の授業(交流)は鍵盤ハーモニカや知らない歌のとき(歌詞が読めないから)は嫌がっていた。どうせ読めないからと教科書を開いて見ることもなく，何度もペラペラとめくるだけだったが，11 月に教科書の曲名やタイトルを読むようになり，文字を書き込んでいた。12 月には教科書の階名を読んで一本指で鍵盤をたどり，鍵盤ハーモニカを弾くことができた。みんなと一緒に演奏するときも，少し遅れながらも最後まで弾くことができた。
・平仮名を覚えたことで，ペラペラめくるだけだった教科書の字を読もうとするようになった。片仮名を覚えたことでドレミが分かり鍵盤ハーモニカを弾くことができた。(支援員さんより)

エピソード 調べるの任せて

・宿題用のノートに「たしーじゃ」と書いてきた。ポケモンだというが，調べてみると出てこず，「つたーじゃでは？」と画像を見せるとそれだと言う。「ぬりえあるかなあ，あとで調べてみる。任せて。」と言い，予定の課題を終えると自分で検索。イラストも調べてその色を参考にして塗った。塗り終えると「名前を書く。」と言って「つたーじゃ」と書き，自分のぬりえ用ファイルに入れて持ち帰った。